

学会報告

2001年度日本経済学会春季大会 に参加して

藤 栄 剛

2001年度日本経済学会春季大会が5月19日に広島市（広島修道大学）において開催された。学会での研究報告は個別報告が中心だが、これとは別に特別報告の時間が設けられており、個別報告と特別報告あわせて115の報告が行われた。個別報告は「成長の実証分析」、「環境経済学Ⅰ」、「ジョブセミナー」など様々なセッションからなっており、各人の関心に応じて参加しやすいように研究分野ごとに大別されている。また、特別報告として「戦略的貿易政策理論の再検討」など4つのテーマについて報告が行われた。

個別報告では報告者による研究報告に加えて討論者による報告に対するコメントの時間が設けられている。報告者は同じ専門分野に属する卓越した研究者から非常に的確なコメントを与えられることにより、今後研究を行う上でより適切な指針を与えられることになる。こうしたコメントは聴衆にとって報告内容を理解する上で大変大きな助けになるとともに、討論のポイントが明示されることになり、会場からの質疑応答をスムーズなものとしていることは言うまでもない。特に若手研究者にとって、討論者からのコメントは報告を行うインセンティブとして強く働くのではないかと感じた。

また、「ジョブセミナー」として大学院生のために用意された報告セッションが存在するのみならず、どの報告セッションにおいても、大学院生の報告が多数あり、特に留学中のPh.D. Candidateの報告はその水準が高いと感じた。筆者と同年代の大学院生による報告は大変刺激になるとともに、研究に対する自身のファンダメンタルの不足を強く感じずにはいられなかった。

一方、「特別報告」では岩本康志京都大学助教授による「社会資本の経済分析」を聴講した。社会資本の生産性に関する研究史、現時点での実証研究の結論が極めて手際よく整理されており、また今後の研究の方向としていくつかの課題が摘出さ

れた。本報告で指摘された内容は農業分野における公共投資に関する研究に対しても有益な示唆を与えているのではないかと思われた。

このように理論、実証両面にわたって、多くの興味ある報告が行われる当学会ではあるが、こと日本農業に直接関係する報告は非常に少なく、1報告のみにとどまっていた。学会開催に関する問題点を指摘する声もあるようだが（永谷敬三「がんばれ日本経済学会」『エコノミックス4』東洋経済新報社、2001. 4, pp. 188～189）、少なくとも筆者にとっては大変刺激ある一日となった。